

古今東西 くんぐん 行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子な
どをお伝えします



今月から開始する新連載「古今東西くんぐん(郡郡)行きます!」。さまざまな現場を郡市長が訪問し、皆さまの活動の様子をお伝えします。初回は、地域の高齢化と向き合う泉区高森東地区を訪ねました。

進む高齢化の中で

昨年11月より、さまざまな活動をされている市民の皆さまを訪ね、私が直接話を伺う「協働がつなぐ仙台―郡市長とふれあいトーク」を始めました。



▲この日も多くの皆さまが集まって、カフェに集まっています。私もさまざまな話を

1回目にお邪魔したのは、地域での支え合いの活動を行っている「結いの会・高森東」。以前は若い世代が暮らす地域というイメージがあった泉区も、現在は高齢化が顕著です。今よりさらに高齢化が進んだらどうなるかを考え、活動を立ち上げました」と代表理事の傳野貞雄さん。住民へのアンケートや先進事例の視察などを実施して練り上げた構想が地域の方に受け入れられて、286人も会員が集まりました。

助け合いから地域づくりへ

結いの会・高森東は「居場所づくり」「お互いさまの助け合い」「見守り」の三つを柱に活動しています。

居場所づくりとして始めた交流会「結いカフェ」は、平成28年度には53回実施して、1215人と多くの方に利用されました。会場であるショッピングセンターの一角は、ガラス張りの明るい空間で居心地が良さそうです。

ごみ出しのお手伝いや病院の付き添いなどは「お互いさまの助け合い」の活動。利用者に3分100円など、少額を負担してもらうことで気兼ねなく依頼でき、利用しやすさにつながっています。スタートしたばかりのことですが、これからの広がりを期待したい活動ですね。

1人暮らしの高齢者などへの「見守



▲結いの会・高森東の皆さんと

り」は、まだ利用者は少ないようですが、他の団体とネットワークを作りながら、情報共有を考えているとのこと。「交流の場に男性の参加を増やしたい」「活動継続には地域の情報収集が鍵」「これからは空き家対策も重要な課題」など、今後の活動に意欲的な声もたくさんお伺いしました。

少子高齢化が加速する中、住み慣れた地域で暮らし続けるために、住民同士が支え合う取り組みが進んでいることは大変心強いですね。互いに助け合うことでつながりを深め、地域がより安全で豊かになることを実感。今後、他の地域にも取り組みが広がるよう、私もさらにサポートしていきます!

団体紹介

結いの会・高森東

高森東地区(高森5～8丁目・北高森)にお住まいの方が、安心して住みよい地域づくりを目指し、高齢化に伴う課題を地域で助け合って乗り越えることを目的に平成28年4月に設立
●代表理事 傳野貞雄さん